

# 加賀検定

## 第11回 加賀ふるさと検定試験問題

初級 (全60問)

解答・解説付

2023年12月17日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

1 昭和 30 年頃までは、和服は、下着は別として、普段は洗濯を殆んど行わず、陰干しや( )をした。

- ① 洗い張り      ② つけ置き      ③ 虫干し      ④ 風あて

正答率 18.3%

和服は、下着は別として、洗濯は殆んど行わず、普段は、虫干しや陰干しをしました。ただし、年に 1 回程度、「洗い張り」をすることもありました。洗い張りとは、着物をいったんほどいて水洗いした後、糊をして「張り板」に張り付け乾かすことをいいます。虫干しは、衣類に虫やカビがつくことを防ぐために、風通しをよくして日にあてることをいい、古来より行われていました。

2 蚊などの虫さされから身を守るために、寝る前におこなった( ) 吊り作業は、昭和 中頃までは日本の風物詩となっていた。

- ① 蚊帳      ② 線香      ③ わら      ④ 虫

正答率 81.7%

蚊帳はおもに麻でつくられた細かい網目状の繊維で、風を通しながら蚊などの害虫は通さないので、窓を開け外気を入れながら寝る事ができました。昭和 30 年ころまで、就寝前に行う蚊帳吊り作業は、夏の夜の風物詩ともなっていました。

3 戦中戦後の食料不足の時代には、芋雑炊や麦めし、( ) めしを主食にしたこともあり、白いご飯を十分に食べる事ができなかった。

- ① 豆      ② きび      ③ 菜      ④ 大根

正答率 26.0%

戦中戦後の食糧不足の時代には、芋雑炊や大根めし・麦めしを主食にしたこともありました。この時代、貧しい家庭では、3 度の食事が十分出来ず、子どもたちはいつも空腹状態で、芋雑炊や大根めしなどは白米を十分にたべることができなかったときの代用食となっていました。

4 加賀市の「はよ、しねま」と言う方言の、「はよ」は早く、「しねま」は( ) という意味ですが、この「しねま」は「死ね」と同義にとられ勘違いされることもあった。

- ① ～しなさい      ② ～するな      ③ ～してしまった      ④ ～したことがある

正答率 99.2%

方言は、その地域に生まれ育った人たちが伝えてきた言葉ですが、その地域で生活する人々の生活基盤のひとつであり、重要な文化のひとつでもあります。しかしながら、近年、学校教育やテレビなどによる共通語の普及、あるいは核家族などによる高齢者との触れあい機会が減少したことで、若者を中心に方言を話す人たちが急激に少なくなってきました。

5 加賀江沼の人々が、古来より親しんできた「江沼三山」とは、富士写ヶ岳、大日山、( ) の3つの山をいう。

- ① 錦城山      ② 鞍掛山      ③ 畑山      ④ 観音山

正答率 61.8%

加賀市で最も高い山である大日山、富士山のような姿をしている富士写ヶ岳、2つのコブがあり、馬の鞍の形に似ている鞍掛山、これら3つの山は「江沼三山」と呼ばれ、古来から当地の人々に親しまれてきました。鞍掛山は、独特な形をしているために海上を航行する船の目印にもなっており、舟見山の別名があります。

6 加賀市は石川県の最西南端に位置し、周囲 98.5 km、面積は約 ( ) km<sup>2</sup>である。

- ① 206      ② 306      ③ 406      ④ 506

正答率 84.7%

加賀市の面積は 306 km<sup>2</sup>です。この面積は、石川県内の 19 自治体では、白山市の 755 km<sup>2</sup>を筆頭に、金沢市、輪島市、小松市、七尾市に次いで 6 番目の大きさです。また、人口順では金沢、白山、小松について 4 番目、人口密度では 10 番目となっています。

7 動橋川の上流、鞍掛山のふもとの山中温泉荒谷町には、石川三名瀑の 1 つである ( ) がある。

- ① 鶴ヶ滝      ② 千束ヶ滝      ③ 女郎ヶ滝      ④ 姥ヶ滝

正答率 74.0%

鶴ヶ滝は、動橋川の上流、鞍掛山の麓の山中温泉の荒谷町にあります。大小 5 段の滝で、高さは約 30 メートル。一番奥の滝が二筋に分かれており、その部分が鶴の足を連想させることから、この滝の名がつけられたとされています。鶴ヶ滝の展望台には鶴ヶ滝不動王がまつられており、ここから眺める滝の姿は美しく、清流に映えるビュースポットとして人気があります。

8 大聖寺川は、古来よりたびたび氾濫を起こしてきたが、昭和 40 年には、我谷ダム、平成 18 年には ( ) ダムが完成し、近年、水害にあうことはほとんどなくなった。

- ① 西谷      ② 菅谷      ③ 風谷      ④ 九谷

正答率 55.0%

大聖寺川は古来より頻りに氾濫し、川沿いの町村に大きな被害をもたらしてきました。そのため、江戸時代よりたびたび改修工事が行われてきましたが、いずれも抜本的な解決策とはなりません。大聖寺がほぼ水害に遭うことがなくなったのは、昭和 40 年の我谷ダム、平成 18 年の九谷ダムの完成、それと昭和 56 年度から 60 年度に行われた国の激甚災害特別緊急事業の、この 3 つの事業によるものでした。

9 山中温泉大土町や富士写ヶ岳より南側は ( ) クラス域に属し、春には葉を開き、秋には紅葉、落葉する木で覆われる。

- ① シャクナゲ      ② ブナ      ③ トチノキ      ④ ヤブツバキ

正答率 33.6%

加賀市の植生のほとんどはヤブツバキクラス域と称する常緑広葉樹林帯ですが、山中温泉から奥の山間部はブナクラス域と称する夏緑広葉樹林帯となります。特に、大日山や富士写ヶ岳の中腹にはブナ林が多くみられます。

10 塩屋海岸から片野海岸にかけては、( ) などのような、保存状態のよい砂丘植生が見られる。

- ① オオバコ      ② セイタカアワダチソウ      ③ ハマヒルガオ      ④ タンホポ

正答率 39.7%

塩屋海岸から片野海岸にかけて砂丘地はおよそ 4.2 kmにおよび、ハマゴウ・イソスミレ・ハマヒルガオ・ハマボウフウなどの保存状態のよい砂丘植生が見られます。特にハマヒルガオは塩屋から片野海岸の砂地に多く見られ、5月から6月にかけて、ピンク色のアサガオに似た花を咲かせます。

11 錦城山の北西斜面には、( ) が巣を作り繁殖するコロニーがある。

- ① キジバト      ② スズメ      ③ コウノトリ      ④ アオサギ

正答率 55.7%

錦城山の北西斜面には、俗に「サギ山」と呼ばれているサギのコロニー（集団繁殖地）があり、4月、5月頃には子育てをする姿を見ることが出来ます。このコロニーにいるのは、アオサギ・アマサギ・ダイサギ・チョウサギなどです。3月に東南アジアからやってきて繁殖期に入りますが、一部は1年中ここで生活するサギもいて、混ざり合って生活を送っています。

12 江戸後期、（ ）は古九谷の再興を決意し、九谷村に窯を開いた。

- ① 塚谷竹軒 ② 永楽和全 ③ 吉田屋伝右衛門 ④ 飯田屋八郎右衛門

正答率 67.9%

大聖寺の豪商、吉田屋伝右衛門（豊田伝右衛門）は、酒造や薬商を営む傍ら、大聖寺藩の金融用達や町年寄の役を務めました。72歳の高齢で、廃業していた古九谷を再興することを決意し、文政6年(1823)ごろ、山中温泉奥の九谷村に窯を開きました。その後、文政9年には山代村に窯を移し、衰退していた古九谷の再興を果たしました。

13 大聖寺地区会館前には、政治家、教育者であり、郷土の殖産興業に貢献した（ ）の石像が建っている。

- ① 梅田五月 ② 竹田儀一 ③ 木村素衛 ④ 広田亥一郎

正答率 57.3%

梅田五月はもと大聖寺藩士で、幕末、東方芝山に付いて多くの学問を学びました。明治以降は石川県議会議員をはじめ、大聖寺町長、国会議員などを歴任し、郷土の殖産興業に尽力しました。なお、琵琶湖に蒸気船を走らせた石川嶂は、五月の実弟です。

14 瀬越村の北前船主（ ）は、明治初年、和船を洋帆船に切り替え大きな利益をあげ、日本を代表する北前船主となった。

- ① 久保彦兵衛 ② 西野小右衛門 ③ 廣海二三郎 ④ 西出孫左衛門

正答率 18.3%

廣海二三郎は瀬越村(現加賀市大聖寺瀬越町)を代表する北前船主ですが、久保彦兵衛と西出孫左衛門は橋立の、西野小右衛門は塩屋を代表する北前船主です。二三郎は、明治初年に和船のほとんどを洋帆船に切り替え、また、明治20年には初めて汽船北陸丸を購入し事業を拡大しました。海運業のほか九州にいくつもの鉱山を経営するなど、日本を代表する北前船主となりました。

15 前田利明の四男で大聖寺新田藩主となった（ ）は、将軍徳川綱吉の法会のおりに接待役となったが、同役の織田秀親を刺殺した。

- ① 前田利昌 ② 前田利鬯 ③ 前田利之 ④ 前田利治

正答率 40.5%

元禄5年(1692)前田利直の3代大聖寺藩主就封の際、弟利昌(采女)に新田1万石を分与したことから大聖寺新田藩が成立しました。宝永6年(1709)5代将軍徳川綱吉の葬儀が上野寛永寺で行われ、この葬儀に際し、利昌は柳本藩主織田秀親等とともに勅使の御馳走役を命じられました。この勤めの際、寛永寺塔頭の顕性院で秀親を刺殺したことで切腹となり、大聖寺新田藩も廃藩となりました。

16 現在、加賀市では、縄文・弥生・古墳時代の埋蔵文化財が、約（ ）ヶ所確認されており、県内有数の遺跡の密集地となっている。

- ① 185 ② 350 ③ 550 ④ 850

正答率 79.4%

埋蔵文化財が確認されている土地のことを「周知の埋蔵文化財包蔵地」といいます。石川県遺跡台帳で、この包蔵地を見ると、加賀市には、埋蔵文化財が約850ヶ所あり、県内有数の遺跡の密集地となっています。古代遺跡が多いということは、この地域が水に恵まれた自然豊かなところで、とても住みやすい土地であったことを示しています。

17 （ ）からは、県内最古の人骨をはじめ、無数の貝類や土器片約200点などが発見さ

れたが、土器は関西の影響を受けている北白川式土器と考えられている。

- ① 橋立大野山遺跡 ② 柴山水底貝塚 ③ 藤の木遺跡 ④ 片山津玉造遺跡

正答率 55.0%

柴山水底貝塚は、昭和39年柴山潟干拓工事中に湖底6メートルのところで発見されました。ここから無数の貝殻のほか、人骨5点、関西の北白川式土器約200点が出土しています。

18 東谷口地区の横北遺跡からは、県内でも珍しい（ ）の注口土器や呪術用具とも考えられる異形土製品が出土している。

- ① 丸形 ② 三角形 ③ 四角形 ④ 菱形

正答率 92.4%

横北遺跡は、昭和31年3月と同51年5～7月にかけて発掘調査され、多くの石器類や土器類が発見されました。その中でも注口土器と土錘形の土製品が注目されました。注口土器は菱形をした完形品で県内でも類例がなく、また異形土製品は一種の呪術具であると考えられています。こうした形の土器は県内では初めてのものとなっています。

19 （ ）遺跡は「北陸の登呂遺跡」と呼ばれており、出土した土器の形から、山陰文化圏との結びつきが極めて強いことが分かった。

- ① 猫橋 ② 柴山出村 ③ 藤の木 ④ 横北

正答率 84.7%

猫橋遺跡から出土した土器は、「猫橋式」と呼ばれる標式土器となっています。出土土器のうち、特に壺・瓶の複合状になった口縁部に巡らされた平行凹線が猫橋の特色で、畿内・中国・四国地方の影響を受けていますが、猫橋の瓶形土器の口縁部の凹線は島根県出雲市知井宮遺跡の出土土器と類似しており、山陰地方との結びつきが極めて強いと判断されています。

20 律令体制下の古代官道には、30里（現在の約16km）ごとに駅が設けられ、北陸道が通る江沼郡には（ ）と潮津駅の2駅が置かれ、それぞれ駅馬5匹が常備されていた。

- ① 牛ノ谷駅 ② 朝倉駅 ③ 大聖寺駅 ④ 動橋駅

正答率 67.2%

律令時代の陸上交通の大動脈である官道には、都と地方の連絡にあたる駅使のために30里（現4里、約16km）ごとに駅家を設けて駅馬を常備しました。馬の数は、大路で20匹、中路で10匹、小路で5匹と定められていました。なお、朝倉駅が在った場所は不明ですが、推定では当市の熊坂町もしくは橋町付近ではないかといわれています。

21 平安末期の白山信仰の本地仏として貴重な山代温泉薬王院安置の木造（ ）は、明治維新まで大聖寺慈光院の本尊であった。

- ① 阿弥陀如来像 ② 不動明王像 ③ 大日如来像 ④ 十一面観音像

正答率 79.4%

現在、山代温泉の薬王院に安置されている「木造十一面観音像」は、もとは大聖寺慈光院の本尊で、山口玄蕃が前田利長に攻め滅ぼされた際に、池に投げ入れられて難を逃れたと伝えられています。明治維新後、同院が廃寺となったので、同じ白山五院の一寺である同宗派の山代温泉薬王院へ移されました。

22 寿永2年（1183）篠原での源平合戦の際に、平家の武将斎藤実盛が白髪を染めるときに使用した鏡を投げ入れたと伝える「鏡の池」は、現在の（ ）にある。

- ① 野田町 ② 深田町 ③ 黒崎町 ④ 小塩辻町

正答率 77.9%

寿永2年(1183)篠原での源平合戦で、敗走する平氏軍の中でただ一騎踏みとどまって討たれた平氏の武将斎藤実盛は、老齢の身を侮られることを嫌って、白髪を染めていたと云われています。また、その髪を染めた鏡を投げ入れたのが深田町の「鏡の池」だとも伝えられています。深田町では年に1回、秋祭りの前に池を清掃し、この時にはこの古鏡を見ることができます。

23 鎌倉時代、北野社領( )の地頭として土着した狩野氏は、荘内の総鎮守である菅生社の領有権も入手するようになり、江沼郡でも最も有力な国人(土豪)にまで成長した。

- ① 福田荘
- ② 山代荘
- ③ 富墓荘
- ④ 額田荘

正答率 71.8%

狩野氏は伊豆国田方郡狩野荘を本拠とする藤原姓狩野・工藤一党の流れをくむ一族で、「承久の乱」後、新補地頭として福田荘に土着しました。弘安10年(1287)の関東下知状によれば、寛元元年(1243)には狩野忠広が荘内の菅生社の領有権を入手したことが確認されています。以後、狩野氏は室町時代末期まで神主職を世襲することとなります。

24 鎌倉新仏教のうち、最初に江沼の地に進出したのは一遍智真が開いた( )であったが、実際に加賀の地を遊行したのは2世真教が最初である。

- ① 浄土宗
- ② 時宗
- ③ 天台宗
- ④ 日蓮宗

正答率 32.1%

鎌倉新仏教のうち、最初に江沼の地に進出したのは一遍智真が開いた時宗といわれています。江沼の民衆が念仏に接した最初は時宗の2世遊行上人真教が加賀を訪れたときです。遊行に際し結縁した人々を時衆と呼びますが、この時宗は南北朝時代以降、江沼郡の海岸より一帯に広まりましたが、その中心は潮津に在った西光寺でした。

25 蓮如の次男蓮乗の河北郡二俣本泉寺、3男蓮綱の能美郡波佐谷松岡寺、4男蓮誓の江沼郡山田( )の三ヶ寺によって、加賀の一向一揆が統制された。

- ① 光教寺
- ② 瑞泉寺
- ③ 光琳寺
- ④ 光徳寺

正答率 60.3%

蓮如の次男蓮乗は寛正元年(1460)二俣本泉寺の如乗の後継者となり、3男蓮綱は文明初期(1470頃)能美郡波佐谷に松岡寺を開きました。4男の蓮誓は文明18年(1486)頃に江沼郡門徒に取り立てられて江沼郡の山田坊へ入り光教寺と号しました。この3兄弟が住持する「加州三ヶ寺」に対し本願寺9世実如は本寺に次ぐ寺格を与えました。

26 平安後期、11世紀後半に悉曇学(梵語)を究め、『悉曇大底』『梵字形音義』な多数の著書を残した僧( )は、白山五院のうちの温泉寺に居住していた。

- ① 浄厳
- ② 仙覚
- ③ 明覚
- ④ 安然

正答率 87.0%

明覚は、天台宗延暦寺で音韻学を学び、のち加賀山代温泉の温泉寺に隠棲して「温泉房」と号し、「加州隠者」と称しました。明覚は、悉曇学や梵字の発音などを研究し、我が国の50音字の配列に大きな影響を与えました。現在、薬王院境内にある国指定重要文化財の石造五輪塔は、明覚の供養塔と伝えられています。

27 建武政権が崩壊し、反尊氏派の新田義貞と結んだ畑時能が狩野一党を味方に入れ、越前の細呂木に堡壘を構えて「( )ノ城」に楯籠もる尊氏方の津葉清文を攻め落としました。

- ① 大聖寺
- ② 金津
- ③ 吉崎
- ④ 牛ノ谷

正答率 42.7%

建武4年(1337)、畑時能は新田義貞に従って越前に入り細呂木に堡壘を築きました。その後、江沼郡の狩野一党を味方に付けて、大聖寺城を拠点にしていた津葉清文を攻撃しました。その後、義貞が戦死すると、越前・加賀は足利氏方(北朝)になり、暦応4年(1341)越前大野郡の山城で斯波氏と激戦の末戦死しました。

28 吉崎村の肝煎役鹿野小四郎は、( )に移住し、この地で約15年間十村役を勤め、その後、農業の知識を子孫に伝えるために『農事遺書』をまとめた。

- ① 野田村 ② 右村 ③ 片山津村 ④ 小塩辻村

正答率 59.5%

鹿野小四郎は吉崎村の貧農で、若い頃は船乗りをしていましたが、兄弟2人が海難事故で亡くしてから農業に専念するようになり、吉崎村の肝煎役を11年間務めました。その間の働きぶりにより、目附十村役に抜擢され、小塩辻村に移住し、約15年間にわたって十村役を勤めました。晩年、公務や家業のことをまとめて子孫につたえるために『農事遺書』全5巻を完成させました。

29 元禄2年(1689)山中温泉を訪れた松尾芭蕉は( )に宿泊し、主人久米之助に俳句の手解きをし、自号「桃青」の一字を取り「桃妖」の俳号を与えた。

- ① 俵屋 ② 吉野屋 ③ 角屋 ④ 泉屋

正答率 71.0%

芭蕉は、元禄2年(1689)7月29日から8月5日まで山中温泉の泉屋久米之助の宿に逗留しました。当時、山中温泉で俳諧を嗜む人が多く、特に泉屋の主人久米之助の伯父「自笑」は俳人で、金沢の俳人たちとも交流が深く、その縁で芭蕉を招いたものと考えられています。芭蕉は久米之助に俳句の手解きをし、自号「桃青」から一字を取って「桃天」の号を与えましたが、天の不吉として、「桃妖」にしたといわれています。

30 大聖寺藩医の家に生まれた( )は儒学を志し、江戸で山本北山や多紀桂山などから学問を学び、日本の考証学を大成させて『九経談』を表した。

- ① 榎田順格 ② 竹内玄同 ③ 草鹿玄泰 ④ 大田錦城

正答率 77.1%

大田錦城は、大聖寺藩医榎田玄覚の7男で、幼い頃より賢く「神童」と称されていました。初め京都の皆川淇園に師事しましたが意に満たず、江戸の山本北山に入門しました。しかしその北山とも絶交し、私塾を開きました。その後、幕府医官の多紀桂山が錦城の才学を愛し援助したため、その評判は江戸中に広まりました。錦城の代表的な著作『九経談』は中国人までが長崎でわざわざ買い求めたといわれています。

31 大聖寺城主溝口秀勝は、慶長3年(1598)4月に越前北庄城主堀秀治が越後国(新潟県)の春日山に移されたことをきっかけに、同国の( )に移された。

- ① 糸魚川 ② 村上 ③ 新発田 ④ 高田

正答率 93.1%

越前北庄城主堀秀治(丹羽長秀の後任、堀秀政の子)は、慶長3年(1598)4月に豊臣秀吉の命により越後(新潟県)春日山へ移封されました。この移封に伴い、堀秀治と与力関係にあった大聖寺城主溝口秀勝は同新発田に、小松城主村上頼勝は同本庄(現村上市)にそれぞれ移封されました。この移封は同年正月の越後春日山城主上杉景勝の会津(福島県)移封に伴うものでした。

32 大聖寺藩前田家の菩提寺である( )には歴代藩主の位牌が祀られ、また、その裏山には、初代から14代までの歴代藩主の墓が建っている。

- ① 本光寺 ② 実性院 ③ 慶徳寺 ④ 全昌寺

正答率 76.3%

大聖寺の南はずれ、下屋敷から神明町にかけての一带は、山ノ下寺院群と称し、禅宗・浄土宗・日蓮宗の各派の寺院が並んでいます。その最も南側に位置する実性院は大聖寺前田家の菩提寺となっています。寺の後ろの石段を登ったところには、初代から14代までの歴代藩主すべての墓が並んでいます。

33 大聖寺藩主2代前田利明は、寛文年中（1661～72）に山城・近江両国から茶の実を購入して領内の村々に配分した。その後江戸後期には（ ）が最大の茶生産地になった。

①山代村 ②保賀村 ③打越村 ④串村

正答率 54.2%

大聖寺藩主2代前田利明は、寛文年中（1661～72）に山城（京都府）・近江（滋賀県）両国から茶の実を購入し、領内の村々に配分しました。茶役は江戸後期に串村が43匁で最も多く、これに山代村が29匁余、保賀村が25匁余、片山津村が18匁余と続きました。打越村は弘化元年（1844）に宇治茶の製法を導入し、領内第一の生産地となりました。

34 大聖寺藩主の在位期間が42年と最も長い5代藩主（ ）は、宝暦年間に幕府から三州（愛知県）吉田橋の掛替工事を命じられ、藩財政を逼迫させた。

①前田利治 ②前田利鬯 ③前田利道 ④前田利家

正答率 38.9%

大聖寺藩主の在位期間が42年と最も長い前田利道は、宝暦元年（1751）12月と同3年7月に幕府から三河国豊橋（愛知県）の吉田橋の掛替工事を命じられ、大金2万3650両を費やしました。ところが工事ミスがあったとして再工事を命じられ、二度目には3万両余の大金をかけて完成させました。そのため藩財政は逼迫し、半知借上げ（禄高の半分支給）措置を行いました。

35 大聖寺城下町の町行政は、寛政7年（1795）からは、藩側役人の町奉行らが町側役人の（ ）に同席して町年寄・町肝煎らとともに事務を行った。

①町役所 ②町役場 ③町会所 ④区会所

正答率 35.1%

大聖寺城下町の町行政は、寛政7年（1795）から藩側役人の町奉行らが町側役人の町会所に同席して町年寄・町肝煎らとともに事務を行いました。町側役人は町奉行一町手代一横目一町付足軽の系列で、町人側役人は町年寄一町肝煎（本町肝煎・地子町肝煎・永町肝煎）一組合頭一十人組の系列で組織されました。

36 大聖寺藩では、加賀藩と同様に専売制の「塩手米制」により塩を生産したが、江戸後期には（ ）・篠原新・浜佐美の3か村のみの生産となった。

①塩屋 ②篠原 ③片野 ④伊切

正答率 74.8%

大聖寺藩は、加賀藩と同様に藩の専売制である「塩手米制」により、片野・中浜（上木出村）・小塩・塩浜・塩屋、伊切、篠原新、浜佐美などで生産しました。江戸後期には「土産塩」と称する他領産の塩が移入され、領内産の塩価格が下落したために、製塩村は伊切・篠原新・浜佐美の3か村に減少しました。

37 大聖寺藩は城を築くことが認められず、現在の（ ）が建っている場所あたりに藩邸屋敷を建てた。

①錦城小学校 ②大聖寺地区会館 ③加賀聖城高校 ④かが交流プラザさくら

正答率 89.3%

藩祖利治は廃城となった大聖寺城に代わり、大聖寺川・熊坂川を堀として、錦城山の麓に藩邸を建てました。その場所は、ちょうど現在の錦城小学校の建物が建つ場所になります。大聖寺藩は十萬石（当所は七萬石）の格式をもっており、本来であればひとつの「城」をもっていても不思議ではありませんが、加賀百萬石の支藩ということで、一国一城令により、城を築くことが認められなかったのです。



38 加賀藩主3代前田利常としつねの夫人（ ）は、元和5年（1619）に婚礼調度品こんれいちょうどひんの一つと伝えられている「蒔絵角赤手筥」まきえすみあかてぼこ（漆芸品しつげいひん）を敷地の菅生石部神社しきじ すがういそべじんじゃに寄進きしんした。

- ①芳春院ほうしゅんいん      ②玉泉院ぎよくせんいん      ③光現院こうげんいん      ④天徳院てんとくいん

正答率 74.8%

加賀藩主3代前田利常の夫人天徳院は、元和5年（1619）に「蒔絵角赤手筥」（漆芸品）を菅生石部神社の祭礼にあたり寄進しました。これは2代将軍徳川秀忠の2女珠姫が慶長3年（1601）に僅か3歳で利常に輿入れしたとき、婚礼調度品の一つとして持参したものと伝えられています。この手筥は国指定文化財となっており現在は東京国立博物館に保管されています。

39 大聖寺岡町おかもちには、万治3年（1660）4月21日に江戸で死去した大聖寺藩祖前田利治まんじの遺骸ほんそ としはる いがいを茶毘だびに付し、菩提寺ぼだいじが建立されるまで遺骨を仮安置かりあんちしたという（ ）がある。

- ①経塚きょうづか      ②灰塚はいづか      ③首塚くびづか      ④四墓よつはか

正答率 35.9%

大聖寺岡町には、万治3年（1660）4月21日に江戸で死去した大聖寺藩祖前田利治の遺骸を茶毘に付し、菩提寺の実性院が建立されるまで遺骨を仮安置したという灰塚があります。利治の死去について、大聖寺の国元に運ばれたのは、利治の遺骸か遺骨かの長い論争（灰塚論争）がありました。『大聖寺藩史』では、本文中で遺骸説をとっているものの、備考においては遺骨説をとっています

40 大聖寺関所の柵門せきしよ さくもんは、明治2年（1869）に関所が廃止されたとき、家老生駒一彦はいし かりういこまかずひこ くちきの口利きで（ ）の境内に移され、瓦葺かわらぶきの屋根がつけられた。

- ①全昌寺ぜんしょうじ      ②宗寿寺そうじゅじ      ③実性院じつしょういん      ④久法寺きゅうほうじ

正答率 48.9%

宗寿寺は永禄元年（1558）開山、盛盈院日英上人によって開創されました。この寺の山門は元々大聖寺藩の関所として使用されていたものですが、明治維新の廃藩置県により宗寿寺へ移築されました。現在、現存する日本で唯一の関所門となっています。

41 都もどり地蔵みやこ じぞうは、平安末期の歌人西行法師さいぎょうほうしと弟子の西住さいじゅうが諸国行脚しよこくあんぎゃの途中、都へ帰る西行と西住が別れた場所である（ ）に安置されたものと伝えられる。

- ①三日市みっかいち      ②七日市なんかいち      ③八日市ようかいち      ④十日市とおかし

正答率 74.8%

「都もどり地蔵」は、平安末期の歌人西行法師と弟子の西住が諸国行脚の途中、都へ帰る西行と西住が別れた場所である八日市に安置されたものと伝えられています。西住は西行法師と別れたのち、再び大聖寺川上流の杉水近くの西住に戻って定住しました。定住した西住村には、西行と別れたときに西住が詠んだという歌が伝えられています。

42 加賀市（ ）町の白山神社はくさんには、北前船きたまえぶねの船主せんしゅや船頭せんどうらが航海の安全祈願きがんや無事帰郷したことを神に感謝して奉納した53面の船絵馬ふなえまがある。

- ①吉崎よし ぎき      ②塩屋しお や      ③瀬越せ ごえ      ④橋立はし たて

正答率 59.5%

加賀市瀬越町の白山神社には、北前船主の廣海家・大家家や船頭らが航海の安全祈願や無事帰郷を神に感謝して奉納した53面の船絵馬があります。この船絵馬のうち年代の確認できるものでは、慶応3年（1867）から大正5年（1916）までのものがあり、和船から西洋帆船・汽船へと移り変わる様子を知る貴重な資料となっています。

43 大聖寺城お きんじょうざんが置かれた錦城山いっこくいちじょうれいは、「一国一城令」げんなが発令された元和元年（1615）から明治期まで（ ）と呼ばれていた。

おしろやま  
①御城山

しろあとやま  
②城跡山

おきんやま  
③御禁山

はいじょうやま  
④廃城山

正答率 78.6%

大聖寺西端の錦城山には、南北朝時代から元和元年（1615）まで数度に亘って大聖寺城が設置されました。南北朝時代や戦国時代の一向一揆が拠った大聖寺城は不詳ですが、織田信長の家臣や溝口秀勝、山口宗永らによって近世城郭として整備されました。この錦城山は、大聖寺城が元和元年（1615）の「一国一城令」により廃城となったため、明治期まで御城山あるいは古城山と呼ばれていました。

44 明治2年7月に発足した「大聖寺県」は、その年の11月に（ ）と合併し、僅か4ヶ月間で消滅した。

①金沢県

②小松県

③石川県

みかわ  
④美川県

正答率 83.2%

明治4年7月に、明治新政府の廃藩置県により、大聖寺県が誕生しました。しかし、この年の11月には、金沢県に合併されたので、大聖寺県があったのは、僅か4ヶ月のことでした。なお、その金沢県も明治5年2月には石川県に改称しましたので、これ以後、当地は「石川県江沼郡」となりました。

45 大聖寺藩士（ ）は、明治2年、琵琶湖の大津と海津間64kmを結ぶ川蒸気船一番丸を就航させた。

いしかわ たかし  
①石川 嶂

ひがしかたしざん  
②東方芝山

あすか いきよし  
③飛鳥井清

いちはしなみえ  
④市橋波江

正答率 83.2%

大聖寺藩士石川嶂は、明治元年（1868）琵琶湖に蒸気船を就航せることを藩当局に進言し承認を得ました。その後、石川嶂は長崎で造船学を学び、蒸気機関2組を英人から購入し、大津の一庭啓二らとともに翌2年に日本最初の湖上汽船一番丸を琵琶湖に就航させました。

46 大正4年、書や篆刻、陶芸、料理などで異彩を放った総合芸術家、北大路魯山人は、山代温泉に逗留し、九谷焼を（ ）から習った。

すだせい か  
①須田菁華

かみできざん  
②上出喜山

おおくらじゅらく  
③大蔵寿楽

きざきばんき  
④木崎万亀

正答率 82.4%

北大路魯山人は、大正4年（1915）秋、山代に来遊しました。風流の心得ある山代温泉旅館の主人たちは、魯山人を快く迎え、書画や篆刻の看板などを注文しました。このとき、九谷焼に関心を寄せ、陶芸家の須田菁華から九谷焼の様式と手法を学び、数々の料理用食器を完成させました。後日、魯山人は「私は須田菁華から教えられた」と述べています。

47 明治11年、明治天皇が巡幸のために大聖寺に来られた際、（ ）に行在所が置かれ、ここで休憩された。

ちやうりゆうてい  
①長流亭

がんじやうじ  
②願成寺

きんじやうしやうがっこう  
③錦城小学校

ぐんやくしよ  
④郡役所

正答率 68.7%

明治天皇の北陸巡幸は、明治11年8月、東京を出発して、富山や金沢を経て、10月6日には、小松の串茶屋村から動橋村を経て、その日の午後に大聖寺町に到着しました。行在所となった錦城小学校には急遽「御座所」がつけられました。この後、明治9年に完成したばかりの熊坂新道を通って福井の方へ向かいました。

48 大聖寺博覧会は、（ ）の4月から5月にかけて錦城小学校と遷明中学校の2ヶ所を会場に盛大に開催された。

①明治12年

②大正2年

③昭和2年

④昭和12年

正答率 63.4%

「大聖寺博覧会」は、明治12年（1879）の4月から5月にかけての15日間にわたり、大聖寺の錦城小学校と遷明中学校の2ヶ所を会場に盛

大に開催されました。この博覧会は、旧大聖寺藩の家老前田幹口や権大参事飛鳥井清らが企画したもので、明治維新後の江沼郡における初の博覧会の開催であり、石川県内でも明治5年の金沢展覧会、同7年の金沢博覧会に次ぐ早い時期の開催でした。

49 太平洋戦争で犠牲となった石川県関係の戦没者は2万2788人で、このうち江沼郡出身の戦没者は（ ）人であった。

- ① 135      ② 1,536      ③ 5,136      ④ 8,236

正答率 58.8%

昭和16年(1941)12月の7日米開戦から昭和20年の敗戦までの間、太平洋戦争で犠牲となった石川県関係の戦没者は2万2,788人で、このうち江沼郡出身の戦没者は1,536人でした。ちなみに太平洋戦争における日本全体の戦争犠牲者数は300万人を超える驚くべき数字です。

50 当地出身の政治家で、これまでに大臣となった人は、厚生大臣を務めた竹田儀一と農林大臣を務めた（ ）の2人だけである。

- ① 坂田英一      ② 岩原謙三      ③ 梅田五月      ④ 瓜生外吉

正答率 68.7%

大聖寺町出身の衆議院議員竹田儀一は、昭和22年(1947)片山哲内閣のもとで国務大臣に、また、翌23年芦田均内閣のもとで厚生大臣を務めました。一方、三木村出身の衆議院議員坂田英一は、昭和40年(1965)佐藤栄作内閣のもとで農林大臣を務めました。

51 当市の基幹産業である機械製造業は、明治36年に、山中温泉の新家熊吉が自転車部品のリムを製造する（ ）が設立されたことがきっかけとなった。

- ① 大同工業      ② 新家商会      ③ 江沼チェーン      ④ 月星製作所

正答率 76.3%

山中漆器の木地挽き職人の家に生まれた初代新家熊吉は、明治32年、漆器を輸出するために出張したロシアで見かけた自転車の車輪(リム)に強い関心を持ちました。それはリムが木製であったため、漆器製造の技術を応用してリムづくりができると確信したからでした。試作に手応えを感じた熊吉は、明治36年に「新家商会」を設立し、これまでの漆器と、新たな木製リムの製造を開始しました。

52 JA加賀では、平成22年から、特産の（ ）を原料とした焼酎を商品化させ販売している。

- ① ジャガイモ      ② カボチャ      ③ サツマイモ      ④ ブロッコリー

正答率 69.5%

代表的な加賀九谷野菜の一つである味平かぼちゃは、夏に収穫される加賀市の特産品です。JA加賀では、このかぼちゃを活用した焼酎「味平かぼちゃ酒」を商品開発し、現在、販売しています。まるやかで味わい深いかぼちゃ焼酎は、JA加賀の人気商品の一つとなっています。

53 山中温泉では、平成15年、宿泊客などが、温泉情緒を感じながら街並みを散策することができるよう（ ）街道を整備した。

- ① ゆげ      ② 菊の湯      ③ 芭蕉      ④ 湯けむり

正答率 79.4%

平成15年(2002)、温泉情緒ある町並みの中を、宿泊者が旅館から出て、歩いて散策出来るよう「ゆげ街道」を整備しました。また、同20年には鶴仙溪に「川床」を開設し、お弁当やスイーツを食べながら景色を楽しむことができる新たなお休み処をつくりました。

54 加賀市出身のプロ野球（ ）所属の山崎颯一郎投手は、同じく加賀市をルーツとしている新家工業株式会社とCM契約を結んでいる。

- ① 阪神タイガース ② 北海道日本ハムファイターズ ③ オ릭スバファローズ ④ ソフトバンクホークス

正答率 61.8%

山崎颯一郎は、加賀市山代温泉の出身。山代少年クラブ、加賀ボーイズなどの野球チームを経て、敦賀気比高等学校に進学しました。高校時代は投手として活躍し北陸のダルビッシュと称されました。2016年のドラフト会議でオ릭スバファローズから6位氏名を受けて入団しました。新家工業(株)は、2023年10月、山崎颯一郎の写真を入れた特製クリアファイルを市内全域の小中学校生徒全員に寄贈しました。

55 加賀市は、令和4年3月に北陸で初めてとなる国家戦略特区の認定を受け、従来の加賀市( )センターを拡張して、令和5年6月にグランドオープンした。

- ① スマートシティ ② 行政サービス ③ イノベーション ④ 医療

正答率 31.3%

加賀市は国家戦略特区に認定されたことで、令和5年6月新しいビジネスやコミュニティ、つながりを生み出す拠点として加賀市イノベーションセンターを拡張しました。ここには、テレワークを行うことができるラウンジやオンラインルーム、インキュベーションルーム、クリエイタースタジオ、3Dプリンタやレーザーカッター等の機器を設置したものづくりルームなどさまざまな機能をもった部屋が用意されています。

### 専門テーマ「古墳」 5問

56 加賀市( )町の丸山古墳は、直径70m近くの規模であるが、もしも前方後円墳ならば、全長120m以上となり、手取川以南では最大級の古墳となる。

- ① 栄谷 ② 南郷 ③ 富塚 ④ 勅使

正答率 38.2%

富塚丸山古墳は、現在周囲を削られて直径70m規模となっていますが、江戸時代に甲冑や刀剣・勾玉等の副葬品が出土したと伝えられており、前方後円墳であった可能性があります。この場合は、全長120m以上の大きさとなり、手取川以南のこの時期では最大の古墳となり、南加賀全体に君臨した権力者の墓だった可能性があります

57 南郷町から吸坂町、上河崎町にかけての丘陵地には、約85基の古墳が密集しており、このうち、吸坂丸山古墳からは県内でも珍しい( )の形をした土器が出土している。

- ① 猿 ② 鶏 ③ 猪 ④ 兎

正答率 81.7%

加賀市南郷町から吸坂町、黒瀬町にかけての丘陵地には、南郷・黒瀬古墳群として総数85基以上の古墳が確認されています。そのなかの丸山支群では、鉄製の冑などの金属製品や、県内では珍しい鶏形土製品などの副葬品が出土しています。

58 昭和7年に、( )町地内で、箱型の石棺が発見された。調査の結果、5世紀中頃の前方後円墳だと判明した。これが、現在、国指定史跡となっている狐山古墳である。

- ① 栄谷 ② 横北 ③ 塔尾 ④ 二子塚

正答率 59.5%

狐山古墳は加賀市二子塚町の北方、動橋川左岸に形成された段丘上に位置し、現在は水田に囲まれています。石棺の中からは、成人男子の骨のほかに銅鏡「画文帯神獸鏡」や銀製帯金具、刀などが発見され、これらの副葬品から畿内勢力との強い結びつきがうかがえ、この地域の統治に成功した江沼臣の一族に関係する古墳ではないかと考えられています。

59 勅使町の法皇山横穴群には、現在までに( )基あまりの横穴が確認されておりこれ

らの横穴は詳しく調べると、200 基以上はあると考えられている。

- ① 50      ② 80      ③ 120      ④ 150

正答率 46.6%

勅使町では、大正 11 年に考古学者の上田三平により、法皇山横穴群が確認され、国の指定史跡となりました。法皇山には、現在までに 80 基あまりの横穴が確認されており、詳しく調べれば、200 基以上はあるだろうと考えられています。現在、この横穴群は、日本海側では最大級のものとして知られています。

60 ( ) 古墳群からは、当地方では最も古い鏡とされる「きよしもんえんほうかくきくしんきょう鋸齒文縁方格規矩四神鏡」と称する中国製どうきょうの銅鏡が発見されている。

- ① すいさか 吸坂      ② くろせ 黒瀬      ③ かわだやま 河田山      ④ ぶんぎょうまえやま 分校前山

正答率 43.5%

分校町から松山町にかけての丘陵地には 70 基あまりの古墳が密集しており、全体を分校松山古墳群と呼んでいます。この古墳群は、分校前山古墳群、分校地墓山古墳群などの支群に分かれています。特に、分校前山古墳群からは「鋸齒文縁方格規矩四神鏡」と称する中国製の銅鏡が発見されました。この鏡は当地方では最も古いもので、大和朝廷が江沼の王に与えたものではないかと考えられています。